

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・当店は観光地に立地しているため、地域全体の動きとはやや異なり、今後の景気は良くなる。当地域では若者が都市部に移り住む動きが多く、危機感を持った自治体が、地元大学に調査を依頼したようだが、遅きに失した感是否めない。余りにも少子化のスピードが急激で自治体も対応できていない状況にある。
		旅行代理店(従業員)	・6月に国内チャーター便を利用した周遊観光のツアーが入ってくる予定があることに加えて、道内路線の増便により国内客、外国人観光客の乗継需要の拡大が期待できる。
		商店街(代表者)	・2～3か月後は中心部で多数のイベントが開催されるため、開催日前後や週末にかけて来街者が増加し、飲食関連を中心に売上が伸びることになる。近年、観光客の入込が堅調に増加していることを考慮すると、売上アップの確度は高い。
		商店街(代表者)	・観光シーズンとなるため、今後についてはやや良くなる。
		百貨店(販売促進担当)	・気温の上昇とともに、春物衣料、夏物衣料といった季節商材が伸びてきており、外国人観光客の伸びと相まって、今後も売上は堅調に推移する。
		スーパー(役員)	・ホテルの数が増えたこともあり、これから夏に向けて観光客の増加が見込まれ、地域経済全体の活性化が期待できる。
		コンビニ(エリア担当)	・前年と比べて太平洋沿岸の漁業が回復傾向にあり、周辺の加工場の稼働が上向きとなっているため、今後の景気はやや良くなる。
		コンビニ(エリア担当)	・夏場は天候次第で販売量が変わってくるが、長期予報では例年よりも気温が高く推移する見込みであり、8月の気温が低かった前年の反動もあり、今後の景気はやや良くなる。ただし、前年は7月の気温が高かったため、今年7月の販売量が前年から大きく減少すると、7～8月のトータルではプラスマイナスゼロになってしまう可能性がある。
		コンビニ(店長)	・季節的に来客数が増加する時期であり、客単価が上昇している状況から、今後については期待できる。
		家電量販店(店員)	・今後については天候次第の面があるが、夏物家電の動きに期待している。
		乗用車販売店(従業員)	・新型車が発売されるため、今後については期待している。
		高級レストラン(経営者)	・飲食業としては、夏の間は観光客の入込があり、暇な夜の時間帯であってもまずまずの来客が見込めるため、景気はやや良くなる。ただ、一般人にとっての見通しは暗いのではないかと捉えている。
		観光型ホテル(スタッフ)	・6月には地元の大イベント、7月にはコンサートと需要を喚起する催事が予定されていることで、予約が堅調に推移している。
		観光型ホテル(役員)	・6月以降の予約状況が回復傾向にある。ただ、ガソリン価格の上昇が続けば、道内客の動きが鈍くなる懸念される。
		旅行代理店(従業員)	・最近では好天が続いていることもあり、例年通りの動きが維持できていることから、今後についても期待できる。
		通信会社(企画担当)	・北海道内全ての店舗で商材、サービスの販売方法を見直す予定のため、その効果が期待できる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕(従業員)	・予約データの動きから、例年と同様に7～8月の輸送量が増加することが見込まれる。
		住宅販売会社(経営者)	・夏頃から消費税増税前の駆け込み需要が出てくるとみられるため、今後については期待できる。
		商店街(代表者)	・売上が増えるような要因が見当たらない。
		商店街(代表者)	・今の社会情勢として、北朝鮮問題の影響がみられるため、その動向によって変化が生じる可能性があるが、これまでの状況から今後も変化がないまま推移する。
	商店街(代表者)	・外国人観光客は5月前半こそ好調であったが、後半になり失速したことから、今後については横ばいで推移する。	
	一般小売店〔土産〕 (経営者)	・2～3か月後は夏の観光シーズンとなり、中国人を始め、外国人観光客が増えることから期待できる。国内客についても、LCCを利用して涼しい北海道に旅行しようという客が増えることが見込め、景気の良い状況が今後も継続する。	
	一般小売店〔酒〕(経営者)	・ここ2～3か月、売上が堅調に推移しているが、これが一過性のものなのか、景気が上向いていることによるものなのか、まだ判断が付きかねている状況であるため、今後も景気は変わらない。	

百貨店（売場主任）	・やや好況を呈している現況から、これ以上の好況までは考えにくく、しばらくは現状維持で推移する。外国人観光客の好調さは今後も継続する。
百貨店（担当者）	・経営環境は大きく変わっていないことから、今後も消費動向に大きな変化はないまま推移する。
百貨店（役員）	・社会情勢としては景気が上向きなのかもしれないが、身の回りの景気は変わっておらず、ギャップが感じられるため、今後も景気は変わらない。
百貨店（営業販促担当）	・催事や期間限定商材に対する客の反応はあるが、通常展開している商材に対する反応が弱まっている。雑貨、衣料品共に同じ傾向であり、今後については変わらないまま推移する。
スーパー（店長）	・衣料品が比較的健闘していたが、5月に入り全部門で動きが悪くなっていることから、今後もトレンドは変わらないまま推移する。
スーパー（店長）	・景気が良くなることを期待しているが、政治面、経済面において打つ手が見当たらないことから、節約志向は変わらない。
スーパー（店長）	・景気変動要因がないため、今後も変わらない。
スーパー（店長）	・当店は老朽化が進んでおり、そのことが客から支持を受けられない要因の1つとなっている。夜の来客数も減少しており、今後、状況が好転することは余り考えられない。
コンビニ（エリア担当）	・公共投資が伸びていないため、地方の店舗を中心に売上が増える見込みが立たない。
衣料品専門店（店長）	・長い間、販売の仕事をしているが、年々、来客数、客単価が落ち込んでいるため、これから先、売上が伸びるという考えが持てない。
衣料品専門店（店長）	・経済情勢が混んとしているため、今後も景気は変わらない。
乗用車販売店（経営者）	・目新しい商材の投入がないことに加えて、当地の主要産業である酪農、漁業が繁忙期を迎え、商談の機会が減ることになる。例年、大きな変化は期待できない時期であるため、今年も期待できない。
乗用車販売店（従業員）	・景気が良くなる兆しが見当たらない。
自動車備品販売店（店長）	・自動車の販売台数は微増ながらも伸びているが、オイル交換、軽整備といった車のメンテナンスについては売上、来客数共、前年比90%と悪いことから、今後も厳しいまま変わらない。
その他専門店〔造花〕（店長）	・生活必需品の値上がりなどにより購買意欲の低下が懸念される。
高級レストラン（スタッフ）	・野菜の価格高騰が収まり、原価調整ができるようになってきたが、客単価が上がってこないため、今後の景気回復は見込みにくい。
旅行代理店（従業員）	・世界情勢の不安解消と円高が進まない限り、早急な景気回復は期待できない。
タクシー運転手	・観光シーズンを迎えて、観光客の増える時期だが、タクシー利用客の増加までは期待できない。
タクシー運転手	・国内客、外国人観光客からの問合せが少なく、前年と比べて予約件数もやや少ない。一方、イベント関係での注文がやや増えていることから、全体ではプラスマイナスゼロで変化がないまま推移する。
タクシー運転手	・可も不可もない地域であり、特段のイベントなどもないため、今後の販売量の増加は期待できない。
タクシー運転手	・現状での景気回復は見込めない。現在の景況感がいつまで続くかは分からないが、ますます厳しい状況にならないよう、動向を注視する必要がある。
通信会社（社員）	・販売方法の変化などにより、客の購買意欲の向上がみられなくなっているため、今後も変わらない。
観光名所（従業員）	・北海道新幹線の乗車率低迷、航空定期便の機材小型化などから、当地域への観光入込が減少傾向にあることがマイナス要素であるものの、豪華客船の寄港の増加、タイや韓国からのチャーター便増便などのプラス要素もあり、全体としては変わらないまま推移する。
観光名所（職員）	・好調であった前年並みの利用客数で推移していることから、今後の本格的な観光シーズンに向けて、国内外の経済情勢に変化がない限り、引き続き好調に推移する。
美容室（経営者）	・売上は月によって多少変動することもあるが、平均的に大きな差異がないまま推移しそうな雰囲気がある。

	住宅販売会社（経営者）	・今年の秋口には、消費税増税を前にした駆け込み需要が出てくるとみられるが、住宅価格が上昇している割に所得が伸びていないため、住宅の購入を手控えている客も多く、前回の消費税増税前ほどの需要は期待できない。
	スーパー（企画担当）	・大手スーパーのみならず地元スーパーも店頭価格の引下げに動いている。価格競争が激しくなりつつあるため、今後の景気はやや悪くなる。
	スーパー（役員）	・5月下旬になり、気温が上昇してきたことで、ようやく来客数が増え始めた。客単価や買上点数は、前年以上の数値となっているが、来客数の減少が大きな問題となっている。また、食料品全般では他業種との競合も厳しくなっている。これらのことから、今後も厳しいまま変わらない。
	乗用車販売店（従業員）	・7月に新車種が発売されるが、数多く販売できるような車種ではないため、今の良い状態と比べると景気はやや悪くなる。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・ガソリン価格は、当面高値安定で推移することが見込まれるため、今後については厳しい。
	高級レストラン（スタッフ）	・来客数の増加がみられないため、今後についてはやや悪くなる。
	旅行代理店（従業員）	・大型工場の減産などの報道に加えて、人口減少も進んでいるため、地域全体として良い方向にはない。
	タクシー運転手	・米朝首脳会談が中止になったことで、日本を含めて緊張感が増しており、消費が控えられることを懸念している。
	美容室（経営者）	・全ての価格が上がっているため、景気が良くなったとしても全く実感できない。人件費上昇の解消、消費税増税の延期などがない限り、景気は変わらない。
	× コンビニ（エリア担当）	・前年は映画の口ケなど、突発的な需要があったが、今年はそうした需要を見込めないため、景気は悪くなる。
	× タクシー運転手	・1運行当たりの収入は増えているものの、運行本数が減少している。運行本数の減少は運送事業にとって致命的な問題であり、今後の景気は悪くなる。
企業 動向 関連 (北海道)	-	-
	建設業（経営者）	・今後、全体的に受注が進み、稼働が上がってくるようになるため、景気はやや良くなる。公共土木については当初予算は横ばいだが、災害復旧工事が終わってきている分、量は若干減少することになる。建築については官民共に前年並みで推移する。
	建設業（役員）	・上半期の工事量は十分確保できており、複数の前年度繰越工事が完了することもある。年度前半は好調に推移する。ただ、民間建築については見積りの引き合いが依然として多いものの、価格や人繰りから見送らざるを得ない案件が多く、公共投資の減速が見込まれる年度後半以降は厳しい受注環境となる。
	輸送業（支店長）	・今のところ、受注量の極端な減少もなさそうであり、順調に推移する。スポット需要の夏場案件も重なってきており、今後の景気はやや良くなる。
	輸送業（営業担当）	・4～5月の北海道は天候が良く、農作物の生育状況も平年より良いことから、今後の農産物の荷動きが良くなることが期待できる。また、本州の気温が、このままの状況で推移すれば飲料品や生乳の道外輸送の増加も期待できる。
	金融業（従業員）	・外国人観光客による消費は今後も堅調に推移する。また、エネルギー価格の上昇を打ち返すだけの賃上げが進めば、個人消費の持ち直しの動きが強まる。これらのことから、今後の道内景気はやや良くなる。
	コピーサービス業（従業員）	・各企業において働き方改革に向けた考え方が徐々に浸透しており、それに伴い設備投資も増えていることから、今後についてはやや良くなる。
	食料品製造業（従業員）	・景気を変化させるような案件もみられないため、今後も変わらないまま推移する。
	家具製造業（経営者）	・個人消費回復の動きがなかなかみられないため、じり貧傾向が継続する。ただ、株価や為替の動きをみる限り、大きく下振れするような要因も見当たらないため、今後も景気は変わらない。
	通信業（営業担当）	・当社の需要予測と周囲の企業の声などから、今後の景況感の振れ幅は上にも下にも小さく、現状のやや良い状態が持続する。
	司法書士	・今年5月までの景気は、全般的に下向き傾向で推移しており、今後も変わらないまま推移する。下半期において不動産取引や建物建築などに積極的な動きが出てくことで景気が上向くことを期待している。

	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・景気の動向が変わるような要素が見当たらないため、今後変わらないまま推移する。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・都市部の再開発、北海道新幹線の札幌延伸に伴う工事などで建設投資が堅調に推移していることから、今後も景気は変わらない。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・前年並みの状況が今後しばらく続く。	
	食料品製造業（従業員）	・受注が見込みより増えたり、減ったりするなど、不規則な動きがみられることから、今後についてはやや悪くなる。	
	出版・印刷・同関連産業（従業員）	・良くなる要素がないため、今後の景気はやや悪くなる。	
	建設業（従業員）	・労務者不足などを理由にした建設単価高騰の影響により、消費税増税を控えた駆け込み発注のような動きも少なく、今後の建築工事発注量の落ち込みが懸念される。	
	司法書士	・景気回復に向けた施策が全くみえない。土地を買って家を建てようという気持ちが湧くような政策がない限り、全般的に動きが鈍くなる。	
	x	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・市場が活況との話もあるが、前月と同様にベース商材の動きが悪く、売上見込みもダウンしてきていることから、今後の景気はやや悪くなる。景気が回復するのはしばらく先のことになる。
雇用 関連	-	-	
(北海道)	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・観光関連や建設土木関連の企業の業況が好調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。	
	人材派遣会社（社員）	・今後も企業は業績拡大のスピードを緩めないことが見込まれる。強気の営業活動が継続することになり、雇用情勢は変わらないまま推移する。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	・社会構造的な若年労働力不足が引き金となり、全業種、職種で求人決定率の弱さがみられることから、今後も変わらないまま推移する。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	・観光業界や大手企業の採用意欲は依然として高いが、中小企業が採用を控えている傾向がみられ、全体的には今後も変わらないまま推移する。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	・観光業については、6～8月が観光シーズンとなるため、少し潤うが、それ以降は例年並みに戻る。また、観光業以外の産業については、設備投資も含めてこれといった目立った動きがない。全体的には今後も変わらないまま推移する。	
	職業安定所（職員）	・月間有効求職者数が前年を下回り、月間有効求人数が前年を上回る傾向が今後も続く。	
	職業安定所（職員）	・世界的なイカの不漁を受け、市場価格が高騰しており、イカを原料とする食料品製造業の業況に不安がある。	
	職業安定所（職員）	・4月の有効求人倍率が6か月連続で前年を上回っており、業種によっては人手不足の状況が深刻化している。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・観光収入の大きい道内経済にとって外国人観光客の来道はプラスだが、最近は価格の安い民泊を利用する観光客の割合が増えている。また、爆買いもほぼなくなったことから、今後については大きな変化がないまま推移する。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	・相変わらず求人が多い業種もあるが、募集広告の掲載枠の大きさを1ランク落とす傾向が表れ始めており、全体的には求人数の減少傾向がより強まることを懸念している。	
	x	-	